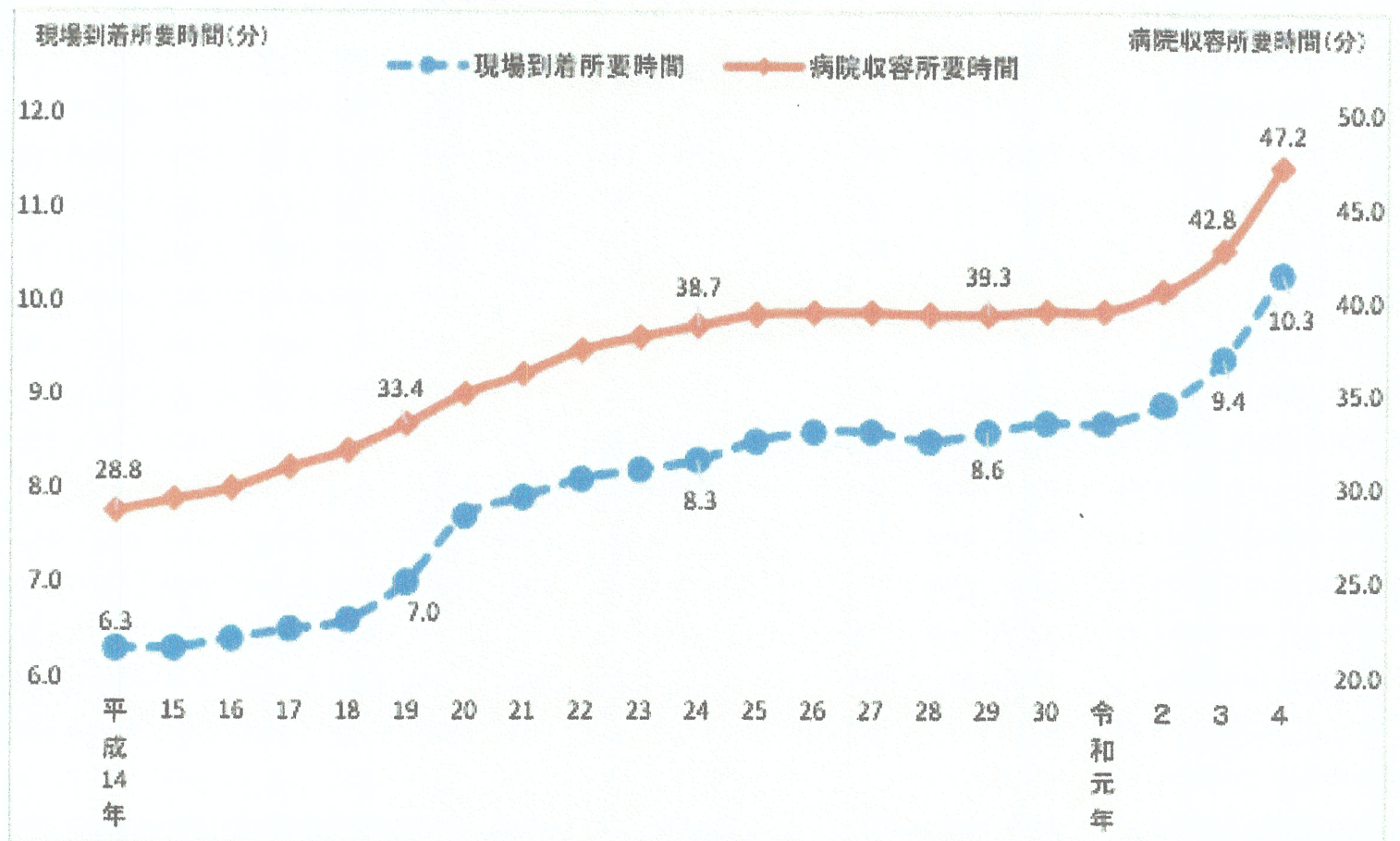


わが国の救急・救助現況のうち、令和4年中の救急自動車による救急出動件数の内訳を事故種別ごとにみると、「交通事故」よりも「急病」や「一般負傷」による出動割合が増加している。また、搬送人員は前年より増加し、年齢区分別の搬送人員の構成比は高齢者が全体の6割程度を占めている。

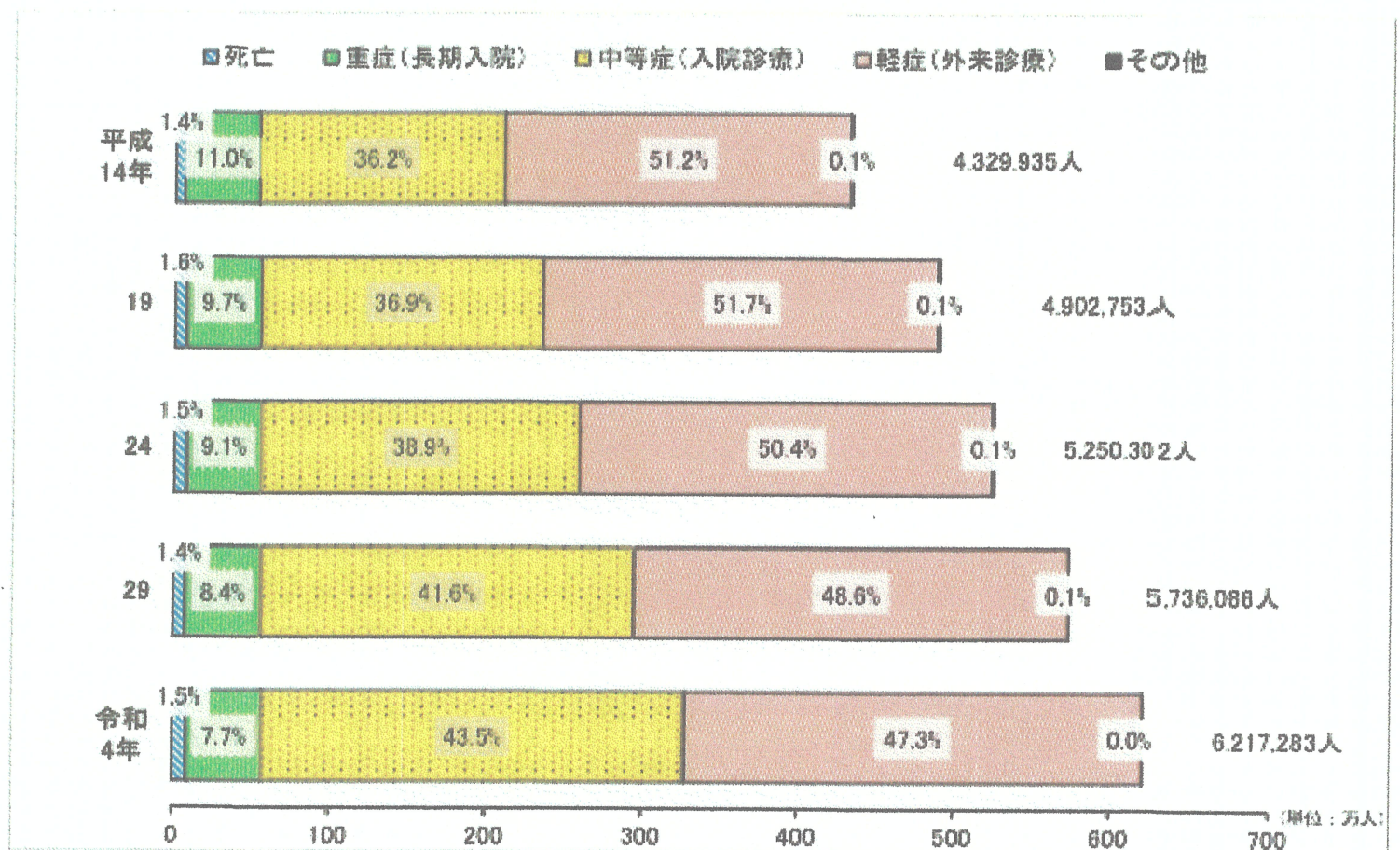
次の図1、図2を見て、以下の問に答えなさい。



※東日本大震災の影響により、平成22年及び平成23年の釜石大槌地区行政事務組合消防本部及び陸前高田市消防本部のデータを除いた数値により集計している。

図1 救急自動車による現場到着所要時間及び病院収容時間の推移

(総務省，報道資料令和6年1月26日「令和5年版 救急・救助の現況」の公表 p6より作成)



1 割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合がある。

2 傷病程度の定義

死亡 : 初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院) : 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症(入院診療) : 傷病程度が重症または軽症以外のもの

軽症(外来診療) : 傷病程度が入院加療を必要としないもの

その他 : 医師の診断がないもの及び傷病程度が不明なもの、その他の場所に搬送したもの

※傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だったものや通院による治療が必要だったものも含まれている。

図2 傷病程度別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移

(総務省, 報道資料令和6年1月26日「令和5年版 救急・救助の現況」の公表 p5より作成)

問1. 図1は、救急自動車による現場到着所要時間と病院収容所要時間の推移である。平成14年から令和4年までの推移の特徴について200字以内で述べなさい。

問2. 図2は、過去20年における傷病別の搬送人員の構成比の5年ごとの推移をみたものである。わが国の救急・救助の現況において、傷病者が発生した時、重症(長期入院)者をより早く救急自動車と病院に搬送できるようにする必要がある。その対策として、医師や看護師に電話相談し、一刻を争う場面かどうかの判断にアドバイスをもらえる救急安心センター事業がある。このような対策がなぜ必要になったのか根拠を提示して説明しなさい。また、個人でできる対策についてあなたの考えを600字以内で述べなさい。